

# 令和6年度第1回鹿児島県学校部活動地域連携等推進協議会 協議概要

## 1 開催期日

令和6年5月28日（火）午後2時30分から午後4時

## 2 開催場所

鹿児島県赤十字会館5階 研修ホール

## 3 会次第

- (1) 開会
- (2) 報告事項
  - ア 運動系部活動について  
令和5年度実証事業における成果報告及び令和6年度国の事業を使った実証事業の概要
  - イ 文化系部活動について  
部活動の地域連携・地域移行の現状
- (3) 協議事項  
部活動の地域移行に係る課題に関する県内市町村の状況について
- (4) 閉会

## 4 報告概要

- (1) 運動系部活動について
  - ア 令和5年度実証事業における成果報告
    - ・ 令和5年度に県内で実施した実証事業は、鹿児島市、枕崎市、南さつま市、薩摩川内市、知名町、与論町の6市町。
    - ・ 6市町及び県の取組みをスポーツ庁に「成果報告書」として提出してあり、近日中にスポーツ庁HP及び県教育委員会HP（リンク）に掲載される。
    - ・ 枕崎市の取組について報告（zoom接続による。）。
  - イ 令和6年度 国の事業を使った実証事業の概要
    - ・ 令和5年度に実施した6市町に加え、いちき串木野市、出水市、長島町、鹿屋市、奄美市を加えた8市3町、計11市町での実施を予定している。
    - ・ 11市町において、79の地域クラブに、56校123部活動を移行する予定。

- ・ 実施主体は市町によって多岐にわたっており，教育委員会，総合型地域スポーツクラブの他に，スポーツ少年団やプロスポーツチーム，民間スポーツクラブや保護者会などがある。

## (2) 文化系部活動について

文化系部活動においては，国の事業を使った実証事業について，令和5年度は与論町のみでの実施であったが，令和6年度は与論町に加え，鹿児島市，いちき串木野市，南さつま市，鹿屋市の4市1町で実施する予定。

## 5 協議概要

- ・ 部活動の地域連携・地域移行は，教員の働き方改革が一因でスタートしたものだと考える。兼業申請をして部活動を指導する先生は，いい先生，指導しない先生は，悪い先生という見方にもつながる。地域の人材の確保が重要。
- ・ 土日は，クラブチーム。平日は，部活動での活動。部活動を中心としてチームづくりをするとなると，クラブチーム所属の選手は，置き去りになる。このような問題も考えていかなければならない。
- ・ これまでは，教員が部活動指導に携わるのは当たり前という考え方があったが，これから採用される教員は，部活動の地域移行があるので指導しなくてもよいと聞いて学校現場にやってくる。部活動をしない先生方への厳しい声があるのも事実。また，地域人材は，パワハラ・セクハラの問題や報酬のことなど，金銭的な問題もある。
- ・ 校長先生方の考え方が様々だと思う。行政として，丁寧に説明してほしい。熊本市は，地域移行はやらないと言っていた。鹿児島県では，地域の格差や温度差が無いようにしたい。また，学校でもできることもある。部活動の適正化委員会を開き，部活動の数を縮小した。具体的には，女子ソフトボールの部の募集をやめた。また，水泳部は，季節制にできないか検討している。
- ・ 指定学校変更の規定がある市町村は，生徒のニーズによって対応することができるので，部活動数を調整せずに対応することもできる。
- ・ 鹿児島県は，スポーツ少年団活動が盛んである。これを上手く活用できないかと思う。
- ・ 地域クラブチームを立ち上げたが，一年でやめるチームや指導者もいる。選手の引き抜きも見られる。このような問題に対するクラブチームの在り方，作り方のルール作りが必要である。
- ・ 地域で働き掛けていくことが必要だと分かった。私たちも働き掛けていきたいと思う。誰が，どこで働き掛けるのか。また，資料もあまり変わらない。国の動向等も見えてこない。課題が見えてこない。何を，ど

のように解決していくのか見えない。熊本市は、やらないと言ったことも分かる。国は、理想論を述べている。県もそれを述べているだけである。具体策が見えてこない。学校現場では、地域移行はどうなっているのかと問われる。校長として答えを持ち合わせていない。現場は、待っている。

- ・ スポーツ協会の状況は、ノースポハラを訴えている。県内では公認指導者として4,200人が登録されている。少年団の指導者資格も改善されてきている。また、中学生が所属するクラブ数も調査中であるが、競技団体も把握をしていない状況である。スポーツ少年団が地域移行の受け皿となる事例があるが、少年団における活動の規定をにも当てはめるべきかという質問を受けた。同じ練習時間ではできない。問い合わせがある。スポーツ少年団においては「練習時間が長い」「暴言」に関する苦情が継続して寄せられている。
- ・ 教育委員会が指導しても聞いてもらえない状況であれば、市町部局に集まってもらって、地域全体を動かす方たちを集めて話をすればよい。地域は、教育委員会任せになっている。市長や町長を呼んで具体策を示してやってもらうしかない。
- ・ 高校においては、地域移行ということはまだ具体的には無いが、昨年度の全国総文祭では、郷土芸能等の指導において、地域の方々からの関わりが大きかった。地域における異年齢の方々とのかかわりは重要である。また、中高一貫校での生徒の様子を見ると、高校生と活動した中学生が自己有用感を高める姿も見られた。全国総文祭のレガシーを受け継いで、生かして行ってほしい。